

耐震診断結果の見方(耐震診断結果と附表の関係)

建築物の耐震診断は、建築基準法で規定される震度6強から震度7に対して、地震に対する安全性を評価するものです。
 安全性の評価Ⅲは、現行基準に相当するものです。安全性の評価Ⅰ又は評価Ⅱの場合は、現行基準を下回る評価となりますが、**いずれの評価に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないとされています。**

【学校】

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果				耐震改修等の予定		備考
					Is/Iso	Ctu・Sd	Ct・Sd	Isk/Iso	内容	実施時期	
1	市立〇〇小学校	神奈川県大和市〇〇1丁目〇〇番〇〇号	十七 幼稚園又は小学校等(小学校)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・同解説」に定める「第2次診断法」(2001年改定版)	Is/Iso	0.45	Ctu・Sd	0.11	耐震改修	平成〇〇年〇月	
2	市立△△小学校	神奈川県大和市△△2丁目△△番△△号	十七 幼稚園又は小学校等(小学校)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	Is/Iso	0.92	Ct・Sd	0.28	耐震改修	平成△△年△月	
3	市立□□小学校	神奈川県大和市□□3丁目□□番□□号	十七 幼稚園又は小学校等(小学校)	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1977年版)	Isk/Iso	1.03	/	/	-	-	

建築物の名称を記載しています。構造上別棟のものは棟ごとに分けて記載しています。

耐震診断に採用した診断方法が記載されています。診断方法によって、安全性の評価における評価基準が異なります。

耐震診断の結果に基づき、各建築物の安全性に関する指標値が記載されています。指標値を附表と比較することにより、安全性の評価Ⅰ～Ⅲを判断します。
【例】
 ・No1の建築物は、安全性の評価「Ⅰ」に該当します。
 ・No2の建築物は、安全性の評価「Ⅱ」に該当します。
 ・No3の建築物は、安全性の評価「Ⅲ」に該当します。

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	Ⅰ 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い	Ⅱ 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある	Ⅲ 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1977年版)	$Is/Iso < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Iso$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	$Is/Iso < 0.5$ 又は $Ct \cdot Sd < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 < Is/Iso$ かつ $0.3 \leq Ct \cdot Sd \leq 1.25$ ($1.25 < Ct \cdot Sd$)
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$Is/Iso < 0.5$ 又は $Ctu \cdot Sd < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 < Is/Iso$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq Ctu \cdot Sd$